

優れた人材の育成とその活躍を支える教育研究基盤の強化

—「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」の推進—

■国立大学等施設の現状と課題

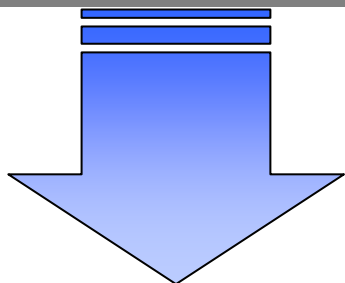
- 第2期科学技術基本計画(平成13~17年度)を受け策定した『国立大学等施設緊急整備5か年計画』の実施により、優先的に取り組んできた狭隘解消は計画通り整備されたが、老朽施設の改善は遅れ、その後の経年等による需要とあいまって、老朽施設は増加

・ 機能上劣化した老朽施設

・ 耐震性に問題のある建物

保有面積全体の1/3

- 平成13年度以降に新たに設置された大学院への対応など、新たな教育研究ニーズも発生



第3期科学技術基本計画(抄) (平成18年3月28日 閣議決定)

- (大学の施設・設備の整備促進は) **公共的施設の中でも高い優先順位**により実施される必要がある。
- 国は、老朽施設の再生を最重要課題として位置付け、長期的な視点に立ち **計画的な整備に向けて特段の予算措置**を講じる。

■「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」(平成18~22年度)のポイント

(平成18年4月18日 文部科学省)

基本方針

- ・ **老朽施設の再生を最重要課題**とした上で、併せて、新たな教育研究ニーズによる施設の狭隘化の解消を図り、**人材養成機能を重視した基盤的施設及び卓越した研究拠点(教育研究基盤施設)の再生**を図る。
- ・ 大学附属病院については、先端医療の先駆的役割などを果たすことができるよう、引き続き計画的な整備を図る。

整備目標

◎整備需要: 約1,000万㎡

⇒緊急に整備すべき対象に重点化 整備目標: 約540万㎡

I. 教育研究基盤施設の再生	①老朽再生	約680万㎡ → 約400万㎡
	②狭隘解消	約280万㎡ → 約80万㎡
II. 大学附属病院の再生		約80万㎡ → 約60万㎡

実施方針

- ・ 文部科学省による支援を基本としつつ、以下の取組みを一層推進する。
 施設マネジメント: 全学的視点に立った施設運営・維持管理、スペースの弾力的・流動的な活用等
 新たな整備手法: 寄附・自己収入による整備、産業界・地方公共団体との連携協力等